

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	I	児童が学校教育目標に向かっている
目標（評価規準）		・学校生活の中で、児童は「自立」し、向上心をもって「生きる力」を育む。 ・児童は、社会や他者に貢献することで、「自立」し、「生きる力」を育む。 ・児童は、楽しく学校生活を送る。
重点に係る現状 設定理由		○本校の学校教育目標「自立・貢献」の具現化を図るために、児童並びに教職員がその意義を捉えながら一定の成果が積み上げられてきた。児童が自立・貢献するために必要な学力の向上、人権意識の高揚をさらにはかかっていく必要がある。日々の授業や学校行事を通して、自己と他者の関係づくりを意識した教育活動を積極的に行い、自己肯定感・自己有用感の向上を目指していきたい。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「学校教育目標・学年目標等を日々の教育活動に生かしている」「職員のプロ意識のもと、教育活動がなされている」という設問に対して、100%肯定的な回答であった。
各アンケート等の結果	<保護者アンケート結果> ○「ルールを守り、協力して学校生活を送っている」「子どもたちが自立の礎となる基礎・基本を身につけるために、適切な指導をしている」「学校教育目標の達成のために取り組んだ行事や児童会活動は有効である」という設問に対して、いずれも肯定的な回答が95%を超えた。 <子どもアンケート結果> ○「ルールを守り、友だちと協力して学校生活をしている」「学校の友だちと仲良くしている」「運動会や社会見学、かがやきのつどいなどの学校行事を進んでやっている」という設問に対して、いずれも90%程度肯定的な回答だった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	<見解> 保護者・子どものアンケート結果から、児童が学校教育目標「自立・貢献」に向けて学校生活を送り、保護者からも概ね良好な評価をいただいていることがわかる。実際、運動会やかがやきのつどい（全校発表）を通して、子どもたち一人ひとりが自身の目標に向けて努力していた。さらに、高学年はその姿を下級生に示すことで、下級生の手本となり、下級生は高学年を目標として取り組んでいた。みんなで協力する大切さを学んだり、達成感を味わったりした子どもたちの姿からも、これらの取組は学校教育目標実現のために効果があったと言える。 一方で、子どものアンケートにある「わたしは授業や宿題など、進んで勉強している」という設問に対して、肯定的な回答は82%だった。このことから、学習に対しては受け身であるという課題もある。 引き続き、教員自身が学校教育目標を意識し、日常生活だけでなく、学習も含め、指導にあたる必要がある。 <改善方策> 授業中の規律が守られ、児童は集中して取り組んでいる。そこで、今後は子どもたち自身が思考したり、表現したりするような授業展開を目指していきたいと思っている。そのためには、教員の授業力向上は必須である。子どもたちに思考を促すような発問、時間の確保等、様々な観点から改善していきたい。 学習に対して主体的に取り組めるようになることで、今まで以上に行事等でも、自信を持って活動する児童の姿が期待できると思う。
学校関係者評価結果	○「6年生を送る会」（第2回学校評議委員会兼学校関係者評価委員会で参観）では、これまでの取組の成果がよく表れていた。 ○各学年の成長が感じられた。特に、低学年が他学年の発表をしっかりと聞いていたことに驚いた。これは、行事等で上級生の姿を見て、学んでいる結果だと思う。今後も異学年での交流は必要だと思う。 という評価をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果（見解と改善方策）と同様。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	教職員は、児童の健やかな成長のために自らを高め、貢献する。
目標（評価規準）		・児童一人ひとりが、安心して楽しく活動ができる学級・学年・学校を確立する。 ・明るく元気な挨拶や優しい言葉の掛け合い、自己肯定感・自己有用感を高め、他者を思いやることができる学級・学年・学校を確立する。
重点に係る現状 設定理由		○教職員が、まず、一人ひとりの児童をしっかり理解し、実態を踏まえた上で授業や学級づくりを進めていくことは常に肝要である。そのためには児童の実態把握、児童指導、授業力等、教職員としての資質・能力を高めていかなければならないと考える。また、児童の自己肯定感を高めるために、日々、教職員が人権感覚を磨き、すべての人の人権が尊重された学校づくりをしていきたい。教職員が授業や児童に関わる時間を保障できるよう、引き続き、働き方改革も推進していきたい。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「すべての人を尊重した学校づくりをしている」「服務規律遵守、事故防止への意識が高い」「職員が一体となって教育活動が行われている」という設問に対して、100%肯定的な回答であった。
各アンケート等の結果	＜保護者アンケート結果＞ ○「学校は子どものことを理解しようとしている」「子どもたちが自立の礎となる基礎・基本を身につけるために、適切な指導をしている」「学校は家庭との連絡や相談を充実し、連携しようとしている」という設問に対して、いずれも肯定的な回答が約95%であった。 ＜子どもアンケート結果＞ ○「先生たちはいろいろと工夫してわかりやすく授業をしてくれる」「先生たちはわたしの考えや意見を大切にしてくれる」「先生たちは子ども一人ひとりを大切にしてくれる」という設問に対して、いずれも肯定的な回答が90%を超えた。
自己評価結果 （見解と改善方策）	＜見解＞ 保護者・子どものアンケート結果から、児童のために、教職員一人ひとりが意識を高くもち、自らを律しながら教育活動に向き合っていることがうかがえる。 しかしながら、子どものアンケートにある「先生たちは、困ったり悩んだりしたときに、相談にのってくれる」という設問に対しては、肯定的な回答は88%であった。慌ただしい日常の中でも、子ども一人ひとりの話を聞く時間を確保し、子どもたちが安心して登校し、毎日を楽しく過ごせるよう努めていきたい。 ＜改善方策＞ 一年間に3回、生活アンケートを実施している。その際はアンケートをもとに子どもと面談し、一人ひとりと向き合う時間を確保している。各担当がすでに取り組んでいることと思うが、さらに、日頃から相談しやすい関係づくりを目指してほしい。そのためにも、働き方改革を推進し、教員が子どもと向き合う時間や心のゆとりを確保していきたい。
学校関係者評価結果	○子どもたちの様子から、健全に育っている（健全な小学校である）と感じている。一方で、子どもの自殺率や不登校者数が増加している昨今、安心できる学校はないと思うので、生活アンケート後の子どもとの面談を丁寧に行ったり、自分から教員に相談できない子どもたちへのサポートを行ったりすることが必要である。 ○時代の変化に伴い、学校のきまりやルールづくりも検討していく必要がある。 ○今の学校は保護者が相談しやすい体制になっている。 という感想やご意見をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果（見解と改善方策）と同様。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	学校関係者との連携を深化する
目標（評価規準）	・児童の向上心を高めるため、指導場面において外部協力者等の地域の教育力の活用を図る。 ・児童の安全確保のために、地域や保護者と連携した活動の充実を図る。	
重点に係る現状 設定理由	○地域での体験学習や外部協力者の招聘などを積極的に行い、児童の知的好奇心や向上心を高めていきたい。 ○登下校を中心とした地域における児童の安心・安全の確保においても貢献いただいている「見守り隊」の方をはじめ、地域や関係機関との連携、相互の理解を深めていきたい。 ○児童が地域に対する愛着を持ち、地域で生きる一員としての自覚を高めることができるようにしたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○「上宮田小学校は、家庭・地域との連携がなされている。」という設問に対して、100%肯定的な回答が得られた。実際、総合的な学習の時間の授業で、保護者に定期的に関わっていただいた学年もあった。また、生活科の学習では、駅周辺のいくつかの店や施設に行き、いろいろ話を聞かせていただいた。おかげで、子どもたちの活動が充実し、学びを深めた。保護者や地域の方との連携について成果があったと言える。
各アンケート等の結果	<保護者アンケート結果> ○「行事や学校公開、通信等を通して、児童の様子や学校の方針がわかるようにしている」という設問に対して、95%以上の肯定的な回答を得た。また、運動会や全校集会「かがやきのつどい」などの行事はもちろんのこと、授業参観や保護者会など、たくさんの保護者の方に参観いただき、好評を得た。 ○児童の登下校については、「見守り隊」の協力を得ている。おかげで、子どもたちが安全に通学することができている。今後も連携していきたい。
自己評価結果 （見解と改善方策）	<見解> 児童の興味関心を高めたり、理解を深めたりするためには、体験活動等、大変有効である。上宮田小学校は駅や店、海が近くにあり、いろいろな校外学習や体験活動を実施することができる。また、それに協力して下さる地域や保護者の方にも恵まれている。引き続き、連携していきたい。 <改善方策> 上宮田小学校は恵まれた環境にあるので、子どもたちの学力向上のためにも、引き続き、地域や家庭と連携していきたいと思う。 また、学校の関係機関ということでは、現在もSCやSSW等にお世話になっている。子どもたち一人ひとりの抱えている問題は、学校だけでは解決できないことも多い。また、保護者自身が悩みを抱えていることもある。担任だけ、学校だけで考えるのではなく、専門性の高い方のご意見をうかがいながら、子どもたちにとってよりよい方法を探っていききたいと思う。そのため、引き続き連携を大切にしていきたい。
学校関係者評価結果	○下校時、しっかり挨拶をしてくれる。 ○生活科の学習で来店した時の態度がよかった。こういった活動があることで、教員と話せたこともよかった。 ○見守り隊が高齢化してきているが、保護者の中には子どもと一緒に登校している方もいる。学校任せにせず、家庭や地域で守るという意識を持っていきたい。 ○以前とは異なるPTAの現状（任意加入の件）を知り、今後どうなっていくのか不安がある。 などの感想・ご意見をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果（見解と改善方策）と同様。